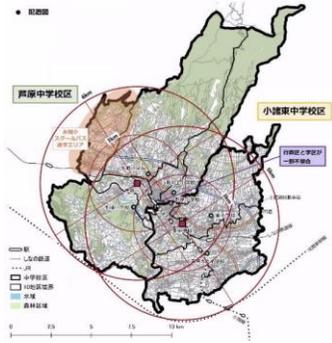


背景・課題整理（学校）

本市は小学校6校、中学校2校の公立学校を設置しており、小学校施設の多くが建築後50年を経過し老朽化が進んでいる。また、人口減少、少子化により児童生徒数の減少も進み、長期的な視野に立った施設の改築、再編が急務となっている。平成31年3月に「小諸市学校教育審議会」を設置し、「望ましい学習環境」に主眼を置き、児童生徒一人一人の学びを支えるための施設の在り方を検討してきた。



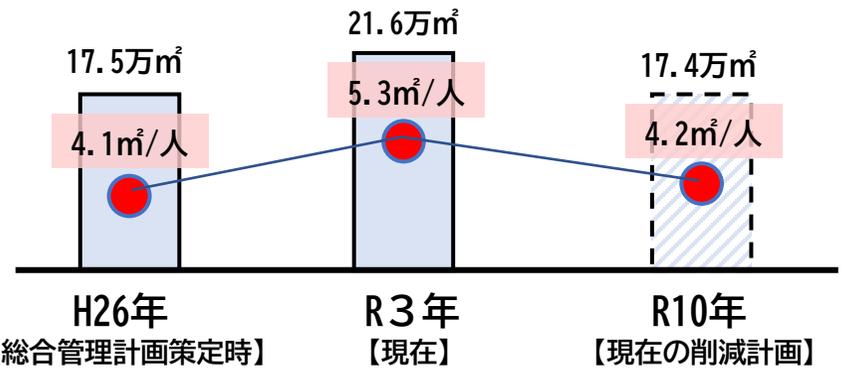
● 施設一覧 (2021年5月1日現在)

名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建築年度	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
					通常学級 在籍生徒	特別 支援	通常学級	特別 支援
1 東小学校	小諸市大字柏木525番地	11,977	5,110	昭和43	420	12	15	2
2 坂の上小学校	小諸市相模町3丁目2番1号	9,357	6,387	昭和45	283	5	12	2
3 野津小学校	小諸市与良町二丁目6番1号	11,395	6,027	昭和53	274	9	12	2
4 水原小学校	小諸市大字鶴101番地の1	13,980	5,762	昭和49	310	14	12	3
5 千曲小学校	小諸市大字山崎2955番地	8,624	4,966	昭和56	88	4	6	1
6 美南が丘小学校	小諸市大字御影新田1985番地	10,630	8,985	昭和41	583	30	20	5
小学校計		65,963	37,237		1,958	74	77	15
1 小諸東中学校	小諸市加増3丁目5番1号	17,515	12,637	平成2	647	35	20	5
2 芦原中学校	小諸市新町2丁目6番1号	15,113	12,249	平成10	372	20	16	3
中学校計		32,628	24,886		1,019	55	36	8
学校施設合計		98,591	62,123		2,977	129	113	23

※「建築年度」は、校舎棟（又は特別教室棟など主要棟）で最も古い建築年度を記載

課題整理（公共施設全体）

本市の公共施設は、総合管理計画を策定した平成26年に比べ、令和3年では総量が約4万㎡、市民一人当たりでも1.2㎡増加している。また、公共施設の老朽化も進行してきており、見直しが必要になっている。人口減少が進む中で社会環境の変化や地域特性に応じた適正な公共サービスの提供が重要となっている。



検討の方向性・検討結果

本計画では、審議会の答申に基づく「中学校区を基本とした小中一貫教育」「望ましい学習環境」を具体化するために、学校施設と他の公共施設との複合化、民間施設の活用による施設規模の最適化を視野に入れ、個別の学校施設の基本計画まで盛り込んだ学校再編計画の策定を行った。

公共施設マネジメント研修会 (令和3年12月)	第1回協議会 (令和4年1月)	第2回協議会 (令和4年2月)	第3回協議会 (令和4年3月)
<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の状況・課題、公共施設の状況・課題を教育委員、市議会議員、施設管理担当者向けに説明会を実施 教育委員会と市長部局が一体となって取り組む意味、必要性を説明 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の詳細な将来推計を実施し、今後優先すべき学校区及び検討の方向性を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 方針に基づく、望ましい学習環境の見える化（再編の目的の共有） 現状を今後も維持した場合の課題の明確化 再編までに対応できることの明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 芦原中学校区の再編案として、現状・計画案①・②の選択肢を提示 計画案①・②の条件整理及びゾーニング案の提示 施設面、人件費等含めた横断的なコストの比較及び効果の明確化

詳細な将来推計

以下のような手順で、児童生徒推計からタイミングを含めた再編計画案を提示し、それぞれゾーニングの検討を行った。

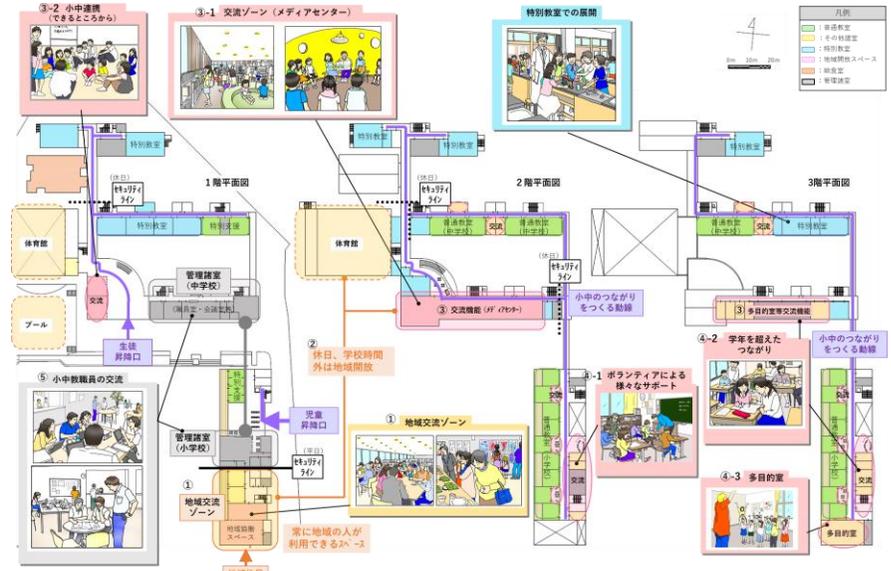
- 1. 詳細な児童生徒推計**
 - まず、今後の学級数の変遷、教職員の人数の変化を明確にした。
 - 「望ましい学校の規模」を可能な限り長く維持するために、中学校区ごとの再編を計画した。
 - どのタイミングで学校が適正規模を下回るのかが明確になるため、「いつまでに再編」すべきかを明らかにした。
- 2. コスト分析**

次に、学校規模を把握し、児童推計、コスト分析により、「現状維持」、施設分離型の「計画案①」、施設一体型の「計画案②」を提示し、それぞれのコスト比較を実施した。
- 3. 複数の再編計画案を提示**

それぞれに、新しい学びを実現するためのゾーニングを計画。

計画案②[小中・施設一体型]のゾーニング案

検討案のうち、計画案②について、以下のようにゾーニングを計画した。



児童生徒推計の実施	児童生徒数	現在										10年後												
		H20	H21	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21
小学校区	児童生徒数	330	331	333	307	290	269	250	230	209	190	170	150	130	110	90	70	50	30	10	10	10	10	10
中学校区	児童生徒数	384	382	380	359	325	289	262	257	247	230	213	196	179	162	145	128	111	94	77	60	43	26	10
合計	児童生徒数	714	713	713	666	614	559	517	507	487	463	443	425	409	395	375	358	341	324	307	290	273	256	240

児童生徒推計の表（表中ではR22年度まで数値を記載しており、中央の薄桃色のR13までの再編が求められるというシミュレーションとなった。）

地域交流ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とボランティア、子ども、お年寄り等、様々な人が集い、交流できる「地域連携協働スペース」。 専用の出入口を設け、平日でも利用可能な空間。
交流機能 (メディアセンター)	<ul style="list-style-type: none"> 学校の中心である南棟2階に図書室とPC室などを融合させたメディアセンターを設置。 交流スペースで高学年の子どもが低学年の子どもに読み聞かせを行う。
小中連携	<ul style="list-style-type: none"> 多目的室では合同で児童会・生徒会を実施。
ボランティアによる様々なサポート	<ul style="list-style-type: none"> 放課後に空き教室等を利用して、地域ボランティアが子どもの学習をサポートする。
学年を超えたつながり	<ul style="list-style-type: none"> 学習室は少人数学習のほか、中学生の出張授業やボランティアの放課後教室にも活用。
多目的室	<ul style="list-style-type: none"> 多目的教室を活用して、さまざまなアクティビティを実施。
特別教室での展開	<ul style="list-style-type: none"> 特別教室では中学校専科教員による授業も実施して、中学校の授業をイメージしやすくなる。
小中教職員の交流	<ul style="list-style-type: none"> 職員室内にカリキュラムマネジメントを話し合う打合せスペースを整備。

(参考) 施設規模

児童生徒数	484人 (小)	297人 (中)	校舎階数	3階建て
普通学級数	18 (小)	12 (中)	校舎面積	14,046㎡
特別支援学級数	4 (小)	3 (中)	屋内運動場面積	3,263㎡

※令和13年想定値